令和7年度　環境保全報告書

Daigasエナジー株式会社
神戸ハーバーランドエネルギセンター

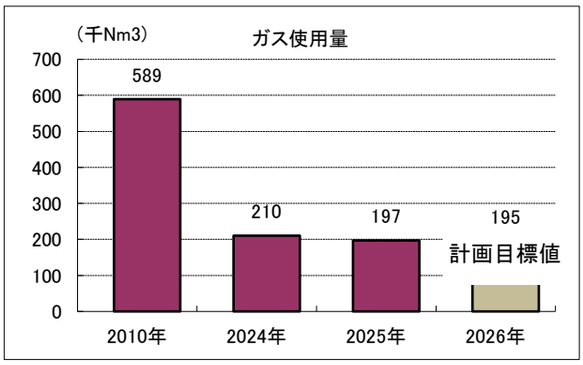
①当該年度の重点取組目標･計画の実施状況

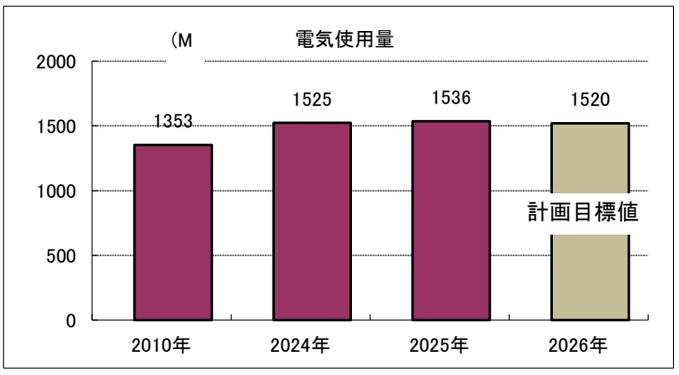
●省エネルギーの推進

＜目標＞ガスの使用量を前年度比で2025年度中に1.0%削減します。
＜取り組み内容＞
・貫流ボイラなどエネルギー効率の良い設備の活用
・高効率機器（インバータ冷凍機等）の優先運転
・プラント内、不要電灯の消灯

高効率機器等効率の良い機器による運用を行い、不要電灯の消灯等を積極的に行った。
夏期の高気温の影響で冷水需要が増えたが、ガス使用量が2024年より6.0%減、
電気使用量が0.72%増の結果となった。
燃料価格の高騰等により操業パターンの変更、気温の影響による冷熱販売の増減等の要因によりやむ得ない状況もあるが、今後も高効率機器等効率の良い設備を優先活用し省エネルギーの推進をしていく。
また、燃料価格の変動による操業パターンの変更等を余儀なくされる恐れはあるが、ほぼ現状維持で推移出来ると判断している。

*ガス、電気使用量は、省エネ法報告に基づく使用量（販売分を除いたCO2排出量より逆算）



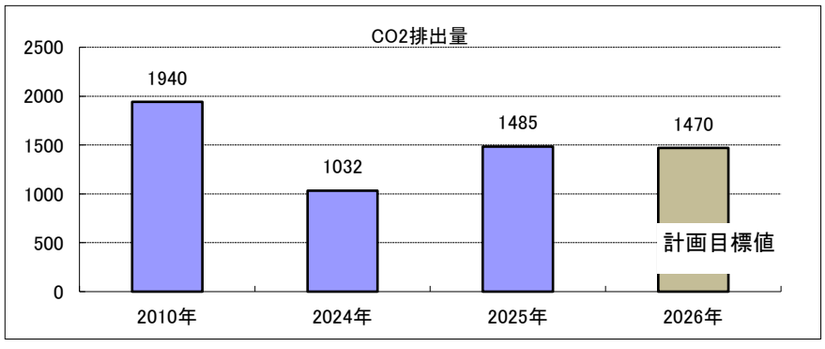


●温室効果ガスの抑制

＜目標＞生産におけるCO2排出量を前年度比で、2025年度中に1.0%削減します。
＜取り組み内容＞
・適正な供給温度、圧力の維持
・余剰機器の運転制限、時間短縮等

供給約款に定める、適正な供給温度、圧力の維持および余剰機器の制限、時間短縮を、さらに積極的かつ効率的に推進し、燃料価格の影響および高効率機器優先による運転パターン検討し実行した。
結果、2010 年度比では23.5%減となった。（省エネ法改正により、2025年度からEEGSにより算出したCO2排出量算定係数を用いることになったため、2024年度比で43.5%増加となっている。）
今年度は設置ボイラの内1台が故障により運転制限される期間が半年あったため、ガス使用量とそれにともない発生するCO2排出量も一時的に減少したが、次年度は2024年レベルに戻る見通しである。
2025年度も設備更新要因による削減予定は無く、燃料価格の変動に対応した操業パターンの変更はあり得るが、ほぼ現状維持での運用になると判断している。

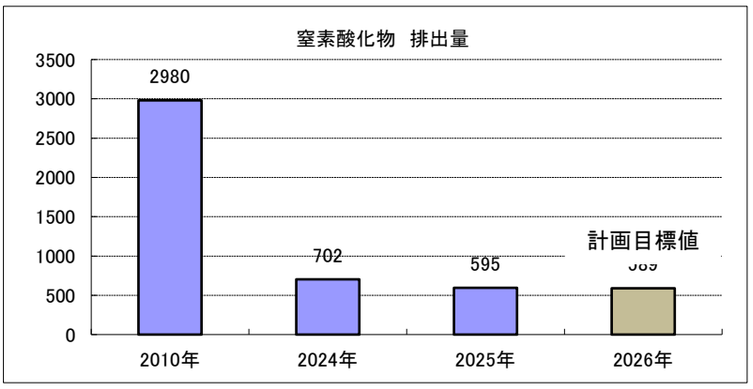
*CO2排出量は、省エネ法報告に基づく使用量（販売分は除く）より算出



●環境管理システムの充実
2024年3月末をもって一部の拠点を除き廃止

② 公害防止対策に係る報告
・大気汚染防止対策
排出規制に係るNox目標値（ボイラー130ppm以下）を遵守する。
窒素酸化物に付いて、前年度の排出量より削減するように努める。
Nox値に付いては13A都市ガスの採用、定期的な測定により法基準値以下を遵守しています。

窒素酸化物排出量は炉筒煙管ボイラが長期間停止していたことで、ガス使用量が減少し
窒素酸化物排出量も減少した。2024年度比では15.2%減と削減出来ているが、
一時的なものであり、次年度は2024年レベルに戻る見通しである。



・水質汚濁防止対策
排出水の水質に係る管理目標値に記載する管理目標値(pH値5.8～9.0)を遵守する。
排出水のpH値を常時監視し、自動制御による調整で目標値以内を遵守しています。
1回/月の自営での計器校正を実施し測定器の精度を維持しています。
・騒音防止対策および振動防止対策
毎月、自主測定記録を行ない傾向管理をしています。
1回/月の測定記録を実施し騒音、振動の傾向把握をし基準値の遵守をしています。
・産業廃棄物対策
排出量の削減、再利用に努める
産業廃棄物処理を外部業者に委託している為、直接的な事項はありませんが
排出量の削減およびリサイクル可能なものに付いては再利用するように指示、依頼
しています。

③ 地球温暖化対策に係る報告

ガス･電気使用量の削減　　---①項の●省エネルギーの推進に同じ

CO2排出量の削減　　---①項の●温室効果ガスの抑制に同じ

④ 公害防止対策及び地球温暖化対策以外の環境保全活動に係る報告

2025年度の環境保全活動に係る具体的実施内容

	分　　野	項　　目	目　　標	実施状況
1	事業所等での節水	節水（上水使用量の削減）	2024年比１％減	2024年度比　22%減
2	事業所等での廃棄物の適正処理・減量	分別回収	徹底	ゴミ箱を分け、継続実施
		コピー用紙の使用削減	継続実施	両面コピーを継続実施
		記録類用紙の再利用	徹底	裏紙として再利用継続実施
		廃棄物発生量の削減	継続実施	産業廃棄物排出実績　3465kg
3	事業所等での再生製品等の使用	グリーン購入の実施	継続実施	継続実施
		再生紙の使用促進	継続実施	継続実施
		プリンタトナーカートリッジの再生利用	継続実施	継続実施
		充電池等の利用	10%	１０%利用
4	環境負荷の少ない資源，材料，燃料の選択	廃棄の際の環境影響を配慮した材料の選定　処分可能部分の塩素化合物の削減	指示・要請	指示、要請継続
		廃棄の際の環境影響を配慮した材料の選定　梱包用発泡スチロールの削減	指示・要請	指示、要請継続
5	自動車対策	マイカー通勤の抑制	原則全廃	100%実施
		社有車の削減	―――	保有なし
		積載量の適正化	指示・要請	指示、要請継続
		エコドライブ・アイドリングストップの推進	指示・要請	指示、要請継続
		（取引企業間における）グリーン配送の実施	指示・要請	指示、要請継続
6	特定フロン等使用量の削減	設備更新時,特定フロン非使用設備を導入	新規導入時	設備更新なし
		特定フロン使用機器の適正廃棄	廃棄時	設備廃棄なし
		環境保全に関する社員研修	19人/年	延べ　19人実施
7	従業員教育	事業所周辺の清掃活動	月１回実施を継続	継続実施
8	地域社会への参画	地域需要家への施設見学の実施	１回／年	1回/年･需要家以外も実施1回